

# 第1回射水市観光振興計画策定委員会会議録

日 時：平成29年10月23日（月） 午後2時～4時30分

場 所：本庁舎3階304会議室

## ■会議次第

1. 開会
2. あいさつ
3. 委員紹介
4. 射水市観光振興計画策定委員会について資料1
5. 議事
  - (1) 委員長及び副委員長の選出
  - (2) 説明及び協議事項
    - ①射水市観光・ブランド戦略プランの進捗状況について資料2
    - ②射水市観光客動態調査等アンケート調査の結果について資料3
    - ③（仮称）射水市観光振興計画（骨子案）について資料4・5
  - (3) その他
6. 閉会

## ■あいさつ

### 市長あいさつ

- 北陸新幹線の開業やロケ地効果により、射水市を訪れる人は増えている。射水市での消費を拡大するため、できるだけ長く射水市にとどまってもらうための準備が必要であると感じる。委員の意見を基によりよい計画を作ってもらいたい。

## ■委員紹介（各委員、出席者紹介）

### ■設置要綱等の説明 資料1

- 各委員承認

### ■委員長の選任・・・（互選）

- 事務局案を求められる  
委員長を選任

### 委員長あいさつ

- ブランドは外から見たイメージであり、それが高いと評価されることによって消費者は興味を持ったり、安心を感じることができる。いかにブランド力を高め、多くの方に満足を与えることができるかが重要である。そのために本物のブランドをつくらなくてはいけない。そして今の世代だけでなく、次の世代への持続・継続性を考えていく必要がある。観光客を増やすよう国も数字をあげて取り組んでいるが、例えば一見さんの観光客が50万人訪れるよりも、20万人が2～3回リピーターとして来てもらうことの方が射水市のブランド力を高め持続性につながると感じる。そのために皆

様と一緒に努力していきたい。

## ■副委員長の選任・・・(委員長指名)

- 事務局案を求められる(会長)  
副委員長を選任

## ■協議事項

### (1) 射水観光・ブランド戦略プランの進捗状況について 資料2

委員：

- 知名度が低いというランキング結果がでていますが、その理由の一つとしては、市町村合併によってできた新しい市であるためと考える。「新湊」等の旧地名の認知度は高いため、積極的に使用してもいいのではないかと。

### (2) 射水市観光客動態調査等アンケート調査の結果について 資料3

委員長：

- P 5の買い物や飲食で消費した平均金額の単位については、家族当たりか一人当たりか。

事務局：

- 一人当たりの金額である。

委員：

- 調査地点について3ヶ所(きつときと市場・道の駅・太閤山ランド)以外にもたくさんの方が訪れていると思うが、他に内川沿いなど別の地点の調査は行っているのか。

事務局：

- 主要施設等の入込数については資料5に記載がある。

委員長：

- 委員の補足として、これから計画を策定・検証していく中で調査地点を再考してくことも課題ではないかという意見が含まれていたと思う。

事務局：

- 現在は3か所のみで調査を行っている。今後内川観光の拠点である川の駅等とも連携し、調査を行ってきたい。

### (3) 射水市観光振興計画骨子案について 資料4・5

事務局：

- 資料5については地域ブランド調査による射水市のランキングや入込数等の資料であるため、説明は省略。

委員：

- 実際に観光ガイドをしている中で、新湊の認知度は高い。そこを核とすることは賛成である。それだけではなく小杉地区の下条川までのガイド等、ベイエリアだけではない射水市全域をPRするよう努力しているが、まだまだ集客は難しいと感じる。

委員長：

- 今の意見としては、まだまだ射水市としての名前が知られていない現状ではあるが、それはそれで良い。そこから他の地区をいかに訪れてもらえるようにするかがこれからの課題であるという意見だったと思う。

委員：

- 他市に比べると射水市のインバウンド対策は劣っていると感じる。バスやタクシーなど公共交通協会でも外国語表記等を行っているが、そういった受入態勢の整備よりもまず射水市に来てもらうための情報発信が重要である。例えば台湾ではスマートフォンの普及率は85%と高く、有名ブロガーの招致等SNSを活用した営業や企画を行っていくべきだと考える。また中国や台湾、東アジアの訪日観光客は多いが、あまり日本海側へ訪れてはいないため、一つ案として雪がない台湾等に向けて冬の味覚をPRすることや、広域と連携し射水をルートとして立ち寄ってもらうなども検討していくべきだ。

副委員長：

- インバウンド対策を行う上で、第一にWi-Fi環境の整備が重要である。例えば万葉線ではSIMカードとルーターさえあれば、すぐにでも実行できる環境にある。また県立大学では地元とのタイアップを強く意識しており、若い世代の情報拡散手段についても相談すると良い。他にも作成は大変かもしれないがGoogleのストリートビューでの室内の全天球、インドアストリートビューの活用も集客に有効だと思われる。

委員：

- 射水市といみずし、書き方の違いでも受ける印象が異なる。感覚的ではあるが「射水ベイエリア」といった記憶に残りやすい言葉・表現をキーワードとして使った方が良いと思う。

委員：

- 計画（案）は絵や写真を入れてもらうとわかりやすい。また先程も意見があったが市単独ではどうしても限界があるため、広域と連携して観光PRを行うべきである。

委員：

- 観光は、地域経済の活性化のツールの一つである。交流人口を増やし、地域での消費を拡大することにより、仕事や雇用も生まれ、将来的な定住人口の増加につながる。消費を増やし経済を活性化する上で例えば、創業だけでなく、観光地エリアに新規店舗を増やすための補助制度等についても考えてほしい。

委員：

- 地域資源を使った祭りやイベントを行う上で、そのPRを誰に対してか（市内なのか県外向けなのか）明確にして行うことで効果があると思われる。

委員：

- 資料や意見を聞く中で、射水市としてのPRよりも新湊等一部のみのPRとしている現状が気になる。射水という地名の歴史やアイデンティティを改めて探りながら射水市という地名の認知度向上をあきらめずに努力すべきである。

委員：

- 歴史という言葉聞いて思いましたが、先日富山県のPR冊子を見た際に、大伴家持の万葉歌が紹介されており、新湊で詠まれた歌も多いのだと目を引いた。加茂神社の神事等、歴史の面からもPRできるのではないかと。県や高岡市では大伴家持に関しての記念事業も予定されており、放生津八幡宮でもイベントを行うと聞いている。また参考にしてほしい。

委員：

- 骨子案（7. 施策の体系）の中でイベントや催事関係については全く記載されていないが、これについてどう考えているのか。また来年は富山新港50周年の節目の年と

なるが、何かイベント等を予定しているのか。

事務局：

- まだ計画案の段階であるため、あくまで例示で一部のみを示した。また50周年記念イベントについては、港の管理者である県と協議し、誘客に向けて企画等を考えていきたい。

委員長：

- 委員よりたくさんの貴重な意見をいただいた。次回の委員会ではこれらの意見を反映させてほしい。

事務局：

- 次回の委員会では意見を取り入れた上で素案を作成したい。

**副委員長閉会あいさつ**

- 市を含め委員は地元の方ばかりであるが、外から見た射水の魅力を発見する場を設けていくのも良いのではないか。

会議終了

※次回の会議は11月27日（月）午後2時から大島分庁舎で実施予定。